

「第2回栃木県立夜間中学設置準備等に係る意見交換会」実施結果について

義務教育課

議事 (1)「多様な学び」のニーズ調査結果について

事務局から、令和6(2024)年度「多様な学び」のニーズ調査結果について説明し、質疑応答を行った。

(2)栃木県立夜間中学設置基本計画(案)について

事務局から、栃木県立夜間中学設置基本計画(案)について説明し、質疑応答を行った。

(3)その他

県立夜間中学設置準備に係る今後の取組などについて意見交換を行った。

協議題「よりよい県立夜間中学にしていくために、今後どのような体制づくりが必要か。」

構成員の主な意見

【外国人支援】

- ・自主夜間中学や地域日本語教室で高校進学を目指す生徒には、県立夜間中学を紹介するなど、学習者のニーズに応じて関係機関が連携を図る。
- ・他方、日本語習得が進んでいない生徒には、大学（語学専任教員や留学生等の協力を仰ぐ）等の協力を得る。

【学び直しの支援】

- ・中学校卒業後の進路として、義務教育段階の学び直しができる県立夜間中学があるということを周知する。
- ・小中学校、フリースクール、教育支援センターで不登校支援をしている教員や、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）との連携を図る。

【学悠館高校】

- ・夜間中学の生徒が、高校の授業を聴講という形で参加できるとよい。
- ・学悠館高校の生徒にとっても、夜間中学の生徒や地域の高齢者の方など、幅広い年齢層の方と交流の機会をもてるとよい。

【全体的】

- ・多様な学びの場をコーディネートする人材が、県立夜間中学にも関係機関にも必要である。
- ・民間と行政の住み分けではなく、協働し、共に歩んでいく体制づくりをする。
- ・入学希望者等から幅広く意見をいただき、学びのニーズを捉えて、教育課程の中で本県独自の県立夜間中学の形を示していけるとよい。
- ・様々な専門家を配置し、「チーム学校」として教育活動を行える体制づくりを進めていけるとよい。

【自主夜間中学】

- ・自主夜間中学を訪問し、生徒の学ぶ様子を見学したり、生の声を聞き取ったりすることを通して、柔軟な教育課程の編成に生かす。
- ・自主夜間中学と県立夜間中学がお互いのもつ強みのところで補完し合うとよい。

【地域連携・資源の活用】

- ・近隣施設を利用して、自然や文化に触れる。
「県立みかも自然の家」宿泊学習で集団生活を学ぶ。
「渡良瀬遊水地」自然観察として生き物などに触れる。
「小山市」結城紬を見学する。
- ・地域の高校と交流する。（農業高校・商業高校・工業高校）

【その他】

- ・1人1台端末をはじめとするICTの効果的な活用策を講じていく必要がある。